

# この事業をすすめることで、あらたな失業者が生まれる！ これまで市の委託事業を支えてきた実績を、 どうして考慮できないのでしょうか？

十一月十六日に船橋市学童保育連絡協議会が提出した「緊急要望書」に対する回答説明会がおこなわれました。この中で市は、公設公営化にもなう指導員（職員）採用は、あくまで「一般公募・競争試験をおこなう」という回答をしました。学童保育の父母と指導員は、

○これまで長年にわたって事業を支えてきた学童保育指導員の経験を、なぜ考慮できないのか。

○非常勤一般職の「規則」では、職員採用について「選考」となっているのに、どこに「競争試験」おこなう根拠があるのか（これまで一回も「競争試験」が実施されていないことを、回答説明会の場でも確認しました）。

○昨年八月にいったん「選考」という方針を掲げながら、なぜ「競争試験」に変わったのか。

○公設公営化によって新たな失業者を生むことに、道義的責任を感じないのか。などと質問しました。

これに対し市は『選考』の中に『競争試験』は含まれる「市の方針は議会などの意見を受けて変えてきた」「多くの指導員を採用するのだから、『競争試験』しか方法はない」などと、従来の説明を繰り返すだけでした。

これまで配布したチラシでもご紹介したように、「選考」と「競争試験」とは違う意味であることは明確です。「規則」の解釈を強引にねじ曲げて、「競争試験」を強行することは大問題です。

一方これまで、「これまでの学童保育は民間であり、指導員問題に関して市は責任ない」とも説明してきました。しかし、市が新事業をすすめることで、市の委託事業のなかで働く親を持つ子どもの放課後を支え続けてきた指導員が、職を失うということは誰の目にも明らか事実です。

どんな言い訳をしようと、その道義的責任を回避することはできません。

私たちは、無条件の継続雇用を主張しているではありません。

非常勤一般職の「規則」とあり、また、市自身がいったん出した方針「現指導員は『選考』し、不足分について一般公募する」に戻すべきだと要望しているのです。

「指導員としての能力の判定」のさい、これまで学童保育で働いてきた経験を考慮することは、事業の円滑な移行のためにも必要なことです。

この間とりにくんできた署名は七万名（第一次分）を越しさらに広がっています。これまで働いてきた経験を考慮することは、市民にもしっかりと支持されていることなのです。

## 船橋市学童保育指導員労働組合

## とにかく、心の底からがっかりしました。

「非常勤職員といっても責任のない仕事だとは思っていない」と市は言っていますが、資格を有し、責任のある仕事に一人も常勤職員を予定していないというのはどういうつもりなのでしょう。一般市民と行政の感覚がズレているとしか思えません。

財政難であることは、わかっているつもりです。それでも、「年収180万円でも生活できますよ」と言い切ってしまう市の態度には、誠意のかけらも見えません。

このような姿勢のもとで子どもたちのことが考えられているのかと思うと、本当に不安でいっぱいです。(20代 女性)



## 悔しい悔しい 切ない思いでいっぱいです...

この数ヶ月、子どもたちの前では笑顔で楽しく接していこうと努力...しかし、子どもたちが「さよなら」した静かな保育室でこれからの事を思い悩む日々です。

あの16日は、寝つけぬ夜。思わず切なさを主人に当たり散らしてしまいました。「180万円でも生活していけますよ」「労働の対価だ」...冗談でも言ってほしくなかったです。我身に置き換えていて下さい。

私たちはまだまだやっていかれるのに、やっていきたいのに生活できなければ辞めざるを得なくなります。慕ってくれている子どもたちには本当に申し訳ないけど...

今日も学校の音楽会で子どもたちの歌声を聞いて、屈託のない笑顔で私に「聞きに来てくれたんだね!!」と手を振ってくる姿に、もうこんな事も出来なくなるんだ...と思っただけになりました。

お願いです。子どもたちにとっても、そこで働く指導員にとっても、本当によりよい公設公営の学童保育にして欲しいです。(50代 女性)

## ひどすぎる!

この時点においてもなお、市は指導員の勤務条件・報酬額など具体的な数値を明らかにしようとはしない。かたくなに拒んでいる。

30年近く市の事業を委託という形で担ってきた私たちに対してだ。それはなぜか??強い不安と疑念を抱かざるを得ない。まして「年収180万円でも生活できる」「これは労働に対する正当な対価だ」という答弁を聞けば、推測でものを言いたくはないが、今でも少ない収入が150万円はダウンすることになる。「働くな」と言われてる気がした。

現状をまったく無視した態度に大きなショックを受けた...市長の「事業の移行にあたっては現状を後退させない」という議会答弁は何だったのか...涙が止まらなかった...

これは人権問題だ!! (40代 男性)

# 指導員の声



## まだ話は終わっていません!

市は「現在の非常勤一般職員の競争試験は行なわれていない」と言っているのに、なぜ、学童保育指導員の募集を「選考」ではなく「競争」試験なのか、今まで研修等を認め、設定してきた市は現指導員に対し、責任はないのか、...まだまだ聞きたいこと、伝えたいことがいっぱいあります。

市にもっと現場の声を聞いて欲しいです! (20代 女性)

11月16日 市は、船橋市学童保育連絡協議会が提出した「学童保育指導員の採用と労働条件に関する緊急要望書」に対する回答の説明を行ないました。父母・指導員89名が集まり、疑問・不安・思いを投げかけましたが、納得のいく回答が得られないまま、終わってしまいました。そこに参加した指導員の怒りの声です。

## 船橋市学童保育指導員労働組合

NO. 11 1999. 11. 22